第十六講　実践演習⑹　『堤中納言物語』

次の文章は、『堤中納言物語』「思はぬ方に泊りする少将」の一節で、大納言夫妻の死後、妹君とともに心細く暮らす姫君のもとに、主人公の少将が通ってくるようになったころのことを記している。これを読んで、後の問に答えよ。

大納言の姫君、二人ものし給ひし、まことに物語に書きつけたるありさまに劣るまじく、何事につけても生(お)ひ出で給ひしに、故大納言も母上も、うち続き隠れ給ひにしかば、いと心細き古里に、ながめ過ごし給ひしかど、(1)はかばかしく御乳母(めのと)だつ人もなし。ただ、常に候(さぶら)ふ(注1)侍従、弁などいふ若き人々のみ候へば、年にそへて人目まれにのみなり行く古里に、いと心細くておはせしに、右大将の御子の少将、知るよしありて、いとせちに聞こえわたり給ひしかど、かやうの筋は、かけても思し寄らぬことにて、御返事(かへりごと)など思しかけざりしに、(注2)少納言の君とて、いといたう色めきたる若き人、何のたよりもなく、二ところ(2)御とのごもりたる所へ、導き聞こえてけり。

もとより御志ありけることにて、姫君をかき抱きて、御帳(みちやう)の内へ入り給ひにけり。思しあきれたるさま、例のことなれば書かず。推しはかり給ひにしも過ぎて、あはれに思さるれば、うち忍びつつ通ひ給ふを、(注3)父殿聞き給ひて、「(3)人のほど、(4)口惜しかるべきにはあらねど、何かは、いと心細き所に」など、許しなく(A)のたまへば、思ふほどにもおはせず。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

君も、しばしこそ忍び過し給ひしか、さすがに、(5)さのみはいかがおはせむ。さるべきに思しなぐさめて、やうやううちなびき給へ(a)るさま、(6)いとどらうたく、あはれなり。昼など、おのづから寝過し給ふ折、見(B)奉り給ふに、いとあてに、らうたく、うち見るより心苦しきさまし給へり。

何事もいと心うく、(7)人目まれなる御すまひに、人の御心もいと頼みがたく、「いつまで」とのみながめ(b)られ給ふに、四、五日いぶせくて積りぬるを、「思ひしことかな」と心細きに、御袖ただならぬを、我ながら、「(8)いつならひけるぞ」と思ひ知られ給ふ。

人心あきのしるしの悲しきにかれゆくほどのけしきなりけり

（注）１　侍従、弁…姫君・妹君に仕える女房の名。
２　少納言の君…姫君・妹君に仕える女房の名。
３　父殿…少将の父、右大将。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　思いやりがある　　イ　血縁がある　　ウ　しっかりしている
エ　年長である　　オ　経験が豊かである

問二　傍線部（2）の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　生活している部屋　　イ　鎖されている部屋　　ウ　就寝している部屋
エ　空いている部屋　　オ　隠れている部屋

問三　傍線部（3）の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　情愛　　イ　容姿　　ウ　身分
エ　財産　　オ　人望

問四　傍線部（4）の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　物足りない　　イ　不愉快だ　　ウ　後悔される
エ　気の毒だ　　オ　親しめない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　傍線部（A）・（B）それぞれ誰の誰に対する敬意を表すか。最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

ア　語り手の姫君に対する敬意
イ　語り手の少将に対する敬意
ウ　少将の姫君に対する敬意
エ　姫君の少将に対する敬意
オ　語り手の父殿に対する敬意
カ　少将の父殿に対する敬意

（A）＝　　（B）＝

問六　傍線部（5）の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　少将との関係をつらく思ってばかりはいられない
イ　少将にひかれたことを悔やんでばかりはいられない
ウ　少将との関係を世間に隠してばかりはいられない
エ　父殿の意向を気にして自重してばかりはいられない
オ　父殿が反対するのに逆らってばかりはいられない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　二重傍線部（a）・（b）の文法上の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。ただし、同じ記号を二度用いてもよい。

ア　受身　　イ　自発　　ウ　尊敬　　エ　可能　　オ　存続

（a）＝　　　（b）＝

問八　傍線部（6）の現代語訳を十字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

問九　傍線部（7）の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人から避けられている
イ　人の目に触れない
ウ　人に知られていない
エ　人の訪れがない
オ　人が住んでいない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問十　傍線部（8）について。どういうことを「なら」ったというのか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　恋がうまくゆかないことゆえの物思いのつらさ
イ　人の愛情をうかつに信じてしまったわが身の愚かさ
ウ　いつまで生きられるかわからない命のはかなさ
エ　自分の思うように生きられない運命のつたなさ
オ　生前の父母からそそがれた愛情のありがたさ

問十一　波線部の和歌の「あき」には「秋」と「飽き」、「かれ」には「枯れ」と「離れ」の意味が含まれている。このような修辞技法を何というか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　枕詞　　イ　掛詞　　ウ　序詞　　エ　縁語

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　復習問題

①「ながめがちならんもいとほしくて」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いつも留守がちであるのも
イ　もの思いに沈みがちであるのも
ウ　落ちぶれて貧しくなりそうなのも
エ　何事にも意欲をもてなさそうなのも

②「はかばかしき御後ろ見なければ…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　計算高い
イ　ちょっとした
ウ　親しみやすい
エ　たしなみがある
オ　しっかりとした

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③ 「御殿籠り」の語について、正しい説明を次の中から選べ。

ア 「共寝をする」の意味の動詞
イ 「寝る」という動詞の尊敬語
ウ 「寝る」という動詞の丁寧語
エ 「じっとしている」という動詞の尊敬語
オ 「じっとしている」という動詞の謙譲語

④ 「とく詠めるにかしこき事なし。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 動詞の活用語尾の一部
イ 受身の助動詞
ウ 自発の助動詞
エ 可能の助動詞
オ 完了の助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　模範解答

問一　ウ
問二　ウ
問三　ウ
問四　ア
問五　(A)オ　(B)ア
問六　ア
問七　(a)オ　(b)イ
問八　ますますかわいらしく（十字）
問九　エ
問十　ア
問十一　イ

〔現代語訳〕

大納言の姫君は、二人いらっしゃったが、本当に昔物語に書きつけてある有り様に劣りそうもなく、何事につけても（すばらしく）成長なさったが、大納言も母上も、続いて亡くなりなさったので、たいそう心細い昔ながらの邸で、物思いにふけって過ごしなさっていたが、しっかりしている御乳母のように世話をする人もいない。ただ、いつもお仕えしている侍従、弁などという若い女房たちだけがお仕えしているので、年が経つにつれて人の訪れも少なくなっていくばかりの昔ながらの邸で、たいそう心細くいらっしゃったところ、右大将の御子の少将が、知る人の縁があって、たいそう熱心に言い寄り続けなさったが、（姫君たちは）このような方面は、まったく思いも寄らないことであって、お返事など気にかけなさることもなかったが、少納言の君といって、たいそうひどく色好みのように見える若い女房が、何の知らせもなく、お二人が就寝なさっている部屋へ、（少将を）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

お導き申し上げた。

もともと（少将は）ご愛情のあったことで、姫君〔＝姉君〕を抱いて、御帳の中へお入りになった。（姫君が）どうしていいかわからなくお思いになっている様子は、（物語では）いつものことなので書かない。（少将は）想像なさっていた以上に、（姫君を）しみじみといとしくお思いになるので、こっそりと通いになさるが、少将の父、右大将が聞きなさって、「身分は、物足りないわけではないが、どうして、ひどく心細い（暮らしぶりの女の）所に」などと、きびしくおっしゃるので、（少将は）思いどおりに（姫君のところへ）いらっしゃらない。

姫君も、しばらくの間は我慢してお過ごしになったが、そうはいってもやはり、そのように少将との関係をつらく思ってばかりはいられない。そうなるはずの前世からの因縁だと思いなさりお慰めになって、しだいに（少将へ）心をお寄せになっている様子が、ますますかわいらしく、しみじみと心動かされる。昼など、つい寝過ごしなさる時、（姫君を）見申し上げなさると、たいそう上品で、かわいらしく、見るからにいじらしい様子をしていらっしゃる。

何事につけてもたいそうつらく、人の訪れがないお邸で、少将のお気持ちもあまりあてにしにくく、「いつまで（通ってくださるのか）」とばかりつい物思いにふけってしまいなさるので、（少将の訪れがなくて）四、五日気が晴れず（思いが）積み重なってしまうと、「思っていたとおりのことだわ」と心細いので、お袖が普通ではない〔＝涙で濡れる〕が、我ながら、「（恋がうまくいかないことゆえの物思いのつらさは）いつならった〔＝習慣になった〕のだろうか」とつい思い知りなさる。

人心…＝秋の兆しが悲しいのは枯れてゆく景色のせいであるように、私に飽きてしまう兆しで悲しいのは、私から離れていくあの人の心の様子なのだなあ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十六講　解答解説

〔解説〕

① 「ながむ（眺む）」は重要単語で、「もの思いにふける」「じっと遠くを見つめる」という意味。よって、正解はイ。ちなみに「詠む（ながむ）」の場合は、「詩歌を吟じる」という意味。

② 「はかばかし」は重要単語で、「しっかりしている」という意味。よって、正解はオ。

③ 「御殿籠る（おんとのごもる）」は、「大殿籠る（おほとのごもる）」と同じで「寝（ぬ）」（＝寝る）の尊敬語。よって、正解はイ。

④ e段（＝サ変の未然形・四段の已然形）＋「ら・り・る・れ」は、完了・存続の助動詞「り」。よって、正解はオ。

〔解答〕

① イ　② オ　③ イ　④ オ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。